

I 令和 8 年度 事業計画

1. 基本方針

昨年、創設 30 周年を迎えた当協会の記念式典は、創設よりメインスポンサーとして社会福祉法人設立をご支援下さった JA 共済様のカンファレンスホールにて執り行うことが出来ました。30 年で拓げて来た多くの支援者の方々のご参加で、これまでの活動とこれからの展望について共有する機会になったことは役職員にとって大きなご褒美でもあり、かつこれからへの期待を感じる身の引き締まる機会ともなりました。

介助犬シンシアと木村さんの活動を契機に始まった運動により 2002 年に議員立法で成立した身体障害者補助犬法に伴い、第二種社会福祉事業となった介助犬訓練事業を定款に謳い設立した当協会は、社会のニーズに応え、欧米の育成団体と同様、介助犬に限らない犬と人をつなぐ事業として With You プロジェクト、Dog Intervention®としての動物介在療法、付添犬といった公益的な事業も拓げて来ており、これらのニーズの高まりを強く感じて来ています。

社会参加の法的枠組みを作った「介助犬」が社会のニーズに応じて新たなる法改正を要する時期はそれほど先ではないこと、また、動物介在療法が現在厳しい環境下に置かれている医療現場を救う重要な位置付けを持つ事業であることを、社会に発信していくことができる組織であり続けなければならないと感じています。

一方、昨年度は複数の職員が同時に産休育休を取る時期に重なり、コロナ禍で研修生制度を中断していたことの課題の大きさを如実に受けたピンチから、新たに職員養成を目的とした研修生制度として再開したことで素晴らしい人財を得てきたチャンスに活かせて来ています。これからも最も重要な人財養成には力を入れてまいります。

また、一昨年の大雨で隣地の樹木が倒れかかって来たことを契機に隣地の地主さんとのご縁が生まれ、当会の身の丈にあった価格で、道路と面している隣地をシンシアの丘の基本財産に組み入れ、まずは駐車場として活用できることになりました。

9 割以上がご寄付・ご遺贈である収入を激増させることは難しい中、物価と人件費高騰は劇的であり、収支のバランスを考えていく運営は非常に厳しい状況にあり続けることが予想されます。また、温暖化により猛暑の期間が半年近くになっている中、犬を動かせる期間、障害者と社会参加をしての訓練をすることも厳しい環境に置かれています。しかしながら、だからこそ犬と人をつなぐことで人を元気にするニーズに丁寧に応えることで、当協会へのご支援の輪を拓げることができるよう邁進することが求められていると考えています。

理事長 高柳友子

2. 取組事項

2-1. 介助犬等育成事業

身体障害者補助犬法に基づく介助犬、医療・福祉領域において犬の介入を行う Dog Intervention®に適性がある DI 犬、さまざまな課題を抱える障害児者と犬をつなぐ With You プロジェクトにおける適性犬とのマッチングおよび障害者とそのご家庭への教育・指導、医療福祉等専門職との連携協力

2-1-1. 介助犬育成

- 1) リハ専門職との連携による、介助犬希望者 3~4 名（うち新規 1 名）に対する介助犬貸与の検討、調整および実施の取組み
- 2) 介助犬使用者 13 名に対する継続指導

2-1-2. Dog Intervention®

- 1) 勤務犬（DI 犬®）貸与先の聖マリアンナ医科大学病院に対する継続指導
- 2) 動物介在活動（AAA）における DI 活動の実施
野のすみれクリニック（月 2 回）
千葉リハビリテーションセンター（年 2 回）
児童相談所一時保護所（名古屋市、川崎市）（各月 2 回）
慶應義塾大学病院（年 4 回）
- 3) 子ども支援センターつなぐからの付添犬派遣要請への対応
- 4) 障害児に対するリハビリテーション専門職による犬プログラムの検討および実施

2-1-3. With You プロジェクト

- 1) 障害児者等のいる家庭 2~6 組に対するニーズに合わせたキャリアチェンジ犬の譲渡の支援の取組み
- 2) 発達障害児支援として認定したペアに対する継続指導

2-2. 繁殖・犬導入および飼育・訓練事業

介助犬・DI 犬に適性がある犬の育成をめざした繁殖と国内外からの犬の導入

2-2-1. 繁殖・犬導入

- 1) 5 回の交配 4 回の出産を実施、20 頭のパピー確保
- 2) 10 頭の繁殖犬（雄 3 頭、雌 7 頭）の保有（うち新規雄 2 頭、雌 2 頭確保）
- 3) 自家繁殖以外からの 6~8 頭のパピーの導入

- 4) 海外の育成団体を含めた4～6頭の候補犬の導入
- 5) 岐阜大学の協力のもと、凍結精液の作成

2-2-2. 飼育および訓練

- 1) 16～20頭（内、新規訓練犬11頭）の候補犬に対する、介助犬としての評価および訓練の実施
- 2) 4～10頭の候補犬に対し、DI犬[®]としての評価および訓練の実施
- 3) パピーに対する訓練およびパピーホームボランティアに対する預かり訓練および訪問指導の実施
- 4) 外部講師によるボランティアの知識と技術の向上の為の講習会とレクチャー実施

2-3. 相談事業

肢体不自由者やその他相談者など介助犬等希望者への対応および、犬を介した支援の検討または専門機関を紹介するなどの情報の提供

2-3-1. 介助犬希望者

- 1) 2回以上の介助犬に関心のある障害者を対象にした対面またはオンラインによる相談会の実施
- 2) 介助犬希望者宅への訪問相談および支援の検討などの調査の実施
- 3) 介助犬希望者・待機者を対象にした体験入所等の実施
- 4) 介助犬希望者・待機者への専門機関への情報提供

2-3-2. Dog Intervention[®]

DIを希望する専門職・専門機関からの相談対応

【相談対応中】

愛知県精神医療センター
藤田医科大学病院
楓の丘こどもと女性のクリニック
北海道せき損センター

2-3-3. With You プロジェクト

With You プロジェクト希望者を対象にした説明会の実施

2-4. 普及啓発・渉外活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入増加を目的とした、普及啓発・広報活動の展開

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディア等、対象者毎に適切な情報提供を行う為の内容・形態、媒体の最適化

2-4-1. 普及啓発イベントおよび講演等

1) 第16回 介助犬フェスタ

令和9年3月27日（土）於愛・地球博記念公園

2) 訓練センターにおける一般見学会の開催（毎月1回）

3) 訓練センターにおける団体見学者の視察受け入れ

4) 企業等からの依頼による講演（対面およびオンライン）

5) 介助犬サポート大使（ジュディ・オング氏、安藤美姫氏、菅野智之氏）のバックアップによるイベント時の広報活動

6) 肢体不自由者への啓発

福祉機器展等への参加による啓発活動

・バリアフリー2026 : 4月15日（水）～17日（金）インテックス大阪

・国際福祉機器展2026 : 10月7日（水）～9日（金）東京ビッグサイト

2-4-2. 企業等との連携による啓発イベント

1) 「はたらくワンワンランド」

「ガンバレ！介助犬！JA 共済はたらくワンワンランド」への参加

2) 読売巨人軍とのタイアップによる継続的な啓発活動の実施

3) その他企業・団体・行政とのタイアップによる啓発活動の実施

2-4-3. 講演会および講師派遣

大学、専門学校等への役職員の派遣

（実績）

愛知医科大学・藤田医科大学・日本福祉大学・朝日大学・淑徳大学・

帝京科学大学・大阪保健医療大学・名古屋外国語大学・山梨学院大学・

神奈川県立保健福祉大学・横浜市立大学・ハワイ大学・

ヤマザキ動物看護大学、麻布大学 等

2-4-4. 募金活動

本部およびセンター近郊地域における啓発および企業団体・慈善団体との連携、強化・募金活動の実施

2-4-5. マスコミ等メディア媒体を利用した啓発

- 1) 新聞およびテレビ番組などのメディアに対する映像・写真素材の提供
- 2) プレスリリースの積極的活用
- 3) X (旧 Twitter) / Facebook / Instagram / YouTube / TikTok/ note への情報発信

2-4-6. 会報誌・ホームページ、その他制作物による啓発

- 1) 会報紙（年4回）の発行
- 2) 閲覧履歴の分析および専門業者との連携によるホームページの随時更新

2-4-7. 関連学会へのブース出展等

リハビリテーション関連学会等、関連学会におけるブース出展、デモンストレーションの実施

【参加予定学会一覧】

第41回世界獣医師大会 2026	【開催】東京都千代田区
：	4月21日（火）～24日（金）
第67回日本神経学会学術大会	【開催】神奈川県横浜市
：	5月20日（水）～23日（土）
第41回日本環境感染学会総会・学術集会	【開催】神奈川県横浜市
：	7月9日（木）～11日（土）
リハビリテーション・ケア合同研究大会 高知 2026	【開催】高知県高知市
：	10月8日（木）～9日（金）
第10回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	【開催】神奈川県横浜市
：	10月29日（木）～31日（土）
第61回日本脊髄障害医学会	【開催】兵庫県神戸市
：	11月12日（木）～13日（金）
第34回日本慢性期医療学会	【開催】福岡県福岡市
：	11月19日（木）～20日（金）
第18回日本身体障害者補助犬学会学術大会	【開催】神奈川県川崎市
：	12月12日（土）～13日（日）

2-4-8. 法人訪問

既存法人会員への訪問、新規企業へのアプローチ、CSR 担当者との面談を通じた地域企業との関係構築

2-4-9. 遺贈寄付、相続寄付の募集体制を整える

- 1) 土業との連携、説明内容の明確化と対応する職員の教育
- 2) 遺贈寄付に関する資料作成

2-4-10. ファンドレイジング

安定した事業運営基盤の確立に向けた賛助会員数の継続、増加および寄付収入施策の検討・実施および収益事業の充実

【寄付・会費・募金・人的支援等】

- 1) 新規法人会員獲得および既存法人会員継続の為の訪問
- 2) 新規支援者獲得の為の広告媒体の活用（Yahoo,TVer 等）
- 3) 遺贈寄付獲得の為の対応強化（包括遺贈の受け入れ検討・金融機関への働きかけ）
- 4) 長久手市とのコラボレーションによるふるさと納税継続
- 5) 募金箱設置場所の拡大
- 6) 寄付付き自動販売機の更なる設置促進
- 7) 会員に対する会報やメールによるニュースレター配信等の継続
- 8) 口座振替やクレジットカード等、会費納入の手軽さの更なる推進
- 9) ボランティア交流会等（年1回）による人的支援の継続の為の施策

【収益事業】

- 1) 販売実績に基づいたグッズの再作成および新規制作による販促活性化施策の推進
- 2) 年間出展と販売実績に基づいた巨人関連コラボグッズの制作および販売
- 3) 決済端末の刷新。決済効率アップを求め、使いやすい製品を選択

2-5. 調査研究

障害者が介助犬等との生活を円滑に送る為の研究および調査

- 1) 学会参加
第18回日本身体障害者補助犬学会学術大会等への参加、
学会団体会員として演題発表
- 2) 必要に応じてリハビリテーション専門職等との補助具の開発

2-6. 関係団体協力

良質な介助犬育成の為に訓練犬の確保を見据えた繁殖情報の交換、繁殖協力関係の強化および、関係団体からの協力要請への対応

2-6-1. 補助犬育成団体等との連携

- 1) 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖事業協力およびキャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係強化
- 2) 日本身体障害者補助犬学会への団体会員加盟
- 3) 第18回日本身体障害者補助犬学会学術大会共催
大会長：聖マリアンナ医科大学 学長 北川博昭氏（当会評議員）

2-6-2. 諸外国の補助犬団体との連携

- 1) ADI (Assistance Dogs International) 加盟団体間からの情報収集および情報交換
- 2) IBC (International Breeding Cooperative) /IWDR(International Working Dog Registry)の加盟団体間との情報交換
- 3) ADI再認可（令和9年12月期限）に向けた準備の推進

2-6-3. 医療・福祉・行政等との連携強化

2-7. 補助・助成申請（令和8年度）

【決定】

- 1) 事業名：困難を抱えた子どもや障がい児者等に向けた犬の介入による支援の充実・継続の為に複合的体制構築事業
 - ・全国生活協同組合連合会：350万円
 - ・教職員共済生活協同組合：150万円
 - ・全国労働者共済生活協同組合連合会：100万円
- 2) 事業名：介助犬育成事業に携わる人材育成
 - ・シンシア基金：25万円

【申請予定】

- ・神奈川県共同募金会（補助金収入(公)）
- ・愛知県身体障害者補助犬啓発事業（補助金収入(公)）
- ・長久手市ふるさと応援活動支援事業（補助金収入(公)）

2-8. 管理・運営

2-8-1. 理事会・評議員会等

定例理事会、評議員会等の開催

令和8年

- ・5月12日（火） 監事監査
- ・5月28日（木） 第1回通常理事会
- ・6月23日（火） 定時評議員会
- ・11月12日（木） 第2回通常理事会・評議員報告会

令和9年

- ・2月25日（木） 第3回通常理事会

2-8-2. 年間行事

令和8年

- ・10月17日（土） 使用者の集い（於介助犬総合訓練センター）
- ・10月18日（日） 慰霊祭（於介助犬総合訓練センター）

令和9年

- ・3月27日（土） 第16回 介助犬フェスタ（於愛・地球博記念公園）
感謝の集い～認定報告会～（第16回 介助犬フェスタ内）

2-8-3. 施設保守・営繕・環境整備

- 1) 介助犬総合訓練センターの敷地・建物・備品維持保全にかかる改修計画の策定および敷地内駐車場の整備施工
- 2) 介助犬総合訓練センターおよび本部における発災時の人・犬の避難にかかる避難経路・避難場所の検討、消防指導に基づく訓練の実施
- 3) 保有車両について、経過年数や走行距離に基づき計画的購入・保守の検討

2-8-4. 人的資源・経営資源の有効活用

- 1) 会員管理システムの更新、在庫管理システムの導入に向けた計画の策定
- 2) 発災後のBCP計画（Business Continuity Plan・業務継続計画）の策定検討

2-8-5. 福利厚生

- 1) 職員の労災予防および健康管理の為の健康増進プログラムの策定・導入
- 2) 福利厚生プログラム『ソウエルクラブ』の継続加入、職員の余暇活動等の活性化
- 3) 職員のライフプランニングについて考える機会の継続的な提供

2-9. 人材育成・研修

「良質な介助犬は良質な人材から」をモットーに、介助犬育成普及事業等に
拡く長く関わる人財を養成

2-9-1. 目標設定・人事評価システム

目標設定システムの活用による適正な査定制度の継続的運用の実施

2-9-2. 職員の人材育成

- 1) 飼育管理担当者、パピー担当者等全ての訓練部職員を対象とした
OJTによる犬のハンドリング技術力向上支援
- 2) 広報活動の為の話し方等 MC 技術、および犬のハンドリング技術の
向上支援
- 3) 研修生の教育および研修修了生の継続的な技術力向上支援
- 4) ビジネスマナー向上の為のセミナー
- 5) 繁殖実務に関する研修に職員を派遣

2-9-3. 研修（セミナー受講）の推奨

- 1) リハビリテーション関連、犬関連に関するもの
- 2) 広報活動の為のマナーおよび MC 技術向上に関するもの
- 3) 法令遵守、企業コンプライアンスに関わるもの
- 4) 企業内 DX 化に必要な知識の習得に関わるもの
- 5) 社会福祉法人の会計に関する知識
- 6) その他、資格取得・自己啓発に関する研修について、職員毎に計画的な
研修の受講の働きかけ

2-10. 研修生制度

介助犬訓練育成を主軸とした当会の活動に関わる人材の養成

研修期間：令和 8 年 4 月～9 月末（2 名採用予定）